

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 保健管理センター

	組織目標	達成状況(成果)
教育	<p>学生に対し、将来へ向けての心身両面の正しい健康感の確立</p> <p>1 フィジカルヘルスに関して 一般教養の講義の充実を図る。フィジカル担当の常勤教員3人のうち2人が新任となるため、講義内容を再検討し、学生の行動変容に結びつくよう内容を工夫する。 また、後期科目の「健康スポーツ科学」及び「診断治療学」を充実させると共に学部・研究科からの講義依頼に積極的に対応する。</p> <p>2 メンタルヘルスに関して 精神科医による講義の充実を図る。「キャンパスライフとメンタルヘルス」を前期、後期に開催する。</p> <p>3 保健管理センター掲示板の充実 センター内に新たに掲示板を設置し、種々の健康教育ポスターを作成して掲示し、診療時や健康診断時に学生・職員に対する啓発活動を図る。</p> <p>4 一般診療での健康教育 一般の診療現場における医師・保健師・栄養士からの健康教育の充実を図る。</p>	<p>→1. センター新任教員においては、過去の教材、試験問題などを参考にして新たに講義資料を作成し、講義を行った。独自の学生アンケートを行ったが、講義内容・形式への高い評価を得ている。</p> <p>→2. メンタル系教育としては、「キャンパスライフとメンタルヘルス」のダイジェスト版および教職員編を新たに作成し、学生に対応する教員への教材を作成した。各学部の依頼講義に応じている。</p> <p>→3. 掲示板は14項目133枚の啓発・教育ポスターを作成した。今後、定期的に見直して適宜変更していく予定。</p> <p>→4. 外来診療では、インフルエンザ・ノロウイルス感染症予防を中心に現場での教育を行った。また、健康診断では、麻疹・風疹のワクチン接種の確認とその意義、また未接種者への勧奨を健康教育の一環として、新入生を中心に保健師から行った。パンフレットも適宜作成・変更している。</p> <p>達成度： 4 ③ 2 1</p>
	<p>学生・職員の健康維持増進に寄与する目的での研究</p> <p>1 健康診断に関するシステム管理の研究 平成22年度で、健康診断時にICカードによる自動読み取りシステムが導入されるため、それを有効に利用できるよう健康診断の新システムを検討する。 さらに、迅速性と正確性を図るため、健康診断時に内科医が所見を直接入力できるシステムをめざして、今後の研究として進めていく。</p> <p>2 メンタルヘルスに関する研究 健康診断での問診は約20年前より行っている。その中のメンタルヘルスに関連した質問の中から、現在の学生の特徴、学年が進むにつれてのメンタル面のトレンドなどに関して検討する。</p> <p>3 肥満・やせに関する研究 現在、国内における男性の肥満、女性のやせの増加などの問題点を、学生の視点でとらえ、その背景にある要因に関して検討する。</p>	<p>→1. 本年度は胸部レントゲンのデジタル化の実施年であり、その検証・意義について、中国・四国大学保健管理研究会で発表した。</p> <p>→2. メンタル系の健康診断問診の結果より経年的変化を検討し、その結果を、講習会などで教職員に還元した。さらに、当センターを受診した不応学生に行った心理テストの結果と意義について全国大学メンタルヘルス研究会で報告した。他にも、センターでの事例を中心とした報告を研究会で発表した。</p> <p>→3. 男性の肥満、女性のやせに関する研究については、講演会などでその成果を発表した。その他、岡山大学保健管理センターで過去50年間に発見された学生の活動性結核の集計を全国大学保健管理研究会で発表し、優秀演題を受賞した。</p> <p>達成度： 4 ③ 2 1</p>
センター業務	<p>学生・職員の健康・安全へむけての業務</p> <p>1 学生・職員の健康診断の充実 自動読み取りシステム導入による迅速性と正確性の向上を図る。</p> <p>2 健康診断事後措置の充実 職員においては、特定健康診査における特定保健指導が共済組合等の保険者によって開始されつつある。センターではこれとは別に独自の方法により、学生・職員の健康診断有所見者の指導及び医療機関への紹介などを充実させる。</p> <p>3 日々の健康相談・安全啓発・診療・指導 各自の専門性を活かし、更なる充実を図る。 また、安全衛生部と協力して「心の健康づくり計画」を策定していく。</p> <p>4 健康・安全への啓発活動 (1)メンタルヘルス クライシスマネジメント研修会の開催(年2回) (2)保健管理センター講演会の開催(年2回を目標とする) (3)学生保健ネットワークの維持・充実 (4)禁煙及び受動喫煙防止</p>	<p>→1. 自動読み取りシステム導入により正確性の向上は図れた。来年度導入される健康診断診察医の、PCによる所見・判定の現場入力により、正確性のみならず健康診断通知の迅速性も一段と向上する予定。</p> <p>→2. 事後措置は、判定を通知するのとは別に、最終転帰を記載し報告するシステムを導入し、約450名の職員に送付した。また、長期間健診未受診者にメール、学内便などで個々に連絡した。</p> <p>→3. 年間延べ約25,000人のセンター来所者に対応した。また「こころの健康づくり計画」の骨子を安全衛生部と作成した。特に「キャンパスライフとメンタルヘルス」教職員編の作成は、実質的な職員のこころの健康対策に寄与すると考えられる。</p> <p>→4. (1)(2)については計画通り実行できた。(3)については、今後双方向性のネットワークへむけての工夫が必要となる。(4)は津島地区安全衛生委員会の受動喫煙防止対策のワーキンググループの中心として提言書・資料作成に寄与した。</p> <p>達成度： ④ 3 2 1</p>
	<p>市民向け、他学校学生向けの啓発活動</p> <p>1 岡山市保健所及び岡山県保健福祉部と連携し、エイズ対策の啓発活動を積極的に行う。</p> <p>2 講演会等により、地域保健所による地域住民への生活習慣病予防の啓発活動を積極的に行う。</p> <p>3 他の教育機関での研修、講義などの依頼に応じる。</p>	<p>市民向け、他学校学生・教員向けの啓発活動</p> <p>→1. エイズ出前講座は今年度2回行った。</p> <p>→2. 地域保健所、学会(市民公開講座)・医師会など依頼があったものには積極的に対応した。</p> <p>→3. 「岡山いのちの電話」のスーパーバイザーとして、地域社会における自殺防止活動の一端を担った。また教員講習会などの講師依頼に応じており、メンタル系の研修や講演は例年通り順調に遂行できた。</p> <p>4 ③ 2 1</p>

【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

- ・教育：講義数は他の業務との関係から現行以上に行うのは困難と考える。ただ当センターでの教育とは、健診時や外来診療時での現場での健康教育・指導が本来あるべき姿と考えており、日常業務の中での医師、保健師、栄養士による指導(教育)体制をさらに充実させていきたい。
- ・研究：保健管理研究会を中心に予定した発表を行えた。論文作成も次年度に向けて努力したい。
- ・センター業務：ほぼ目標に達した成果と考える。今後、新しいシステム導入(健康診断診察医現場入力)を、正確性、迅速性、機密性へと結びつけることが課題と考えられる。啓発活動は、大学内の現状を鑑み、メンタル系を中心に考えていきたい。
- ・「社会貢献」への取り組みは、個々の教員が判断し、可能な限り活動しているというのが現状である。労働安全衛生関連の職務増大に伴い、学内での研修会や講演会を重視し、対外的な社会貢献活動は減少傾向となりつつあるが、当組織の性格上やむを得ないことであると考えている。

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。